

2016年度後期

《学生による授業評価アンケート》結果報告書

相愛大学 FD 委員会

# 目次

1. まえがき	1
2. 結果の分析	
基礎・共通および資格関係	2
音楽学部	5
人文学部	8
人間発達学部	14
グループ平均一覧	20
3. 学生による授業評価アンケートの調査結果及び教員によるコメント	22
4. 資料	170



## まえがき

2016年度後期の授業評価アンケートの結果を、ご報告いたします。先生方には、講義時間内でのアンケート調査の実施、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございます。

本アンケートは2015年度前期から同じ質問項目で行っており、授業に対する学生の評価を年ごとに比較することが可能です。

各学年において半年間の学びを経験した後期のアンケート結果や自由記述欄は、学年の変わり目である前期と比較して、学生の学びに対する姿勢の変化、自信や興味の高まりなどを感じることができるようになります。また、高校とは異なる大学の教育を経験した一回生のアンケート結果から、来年度以降の初年度教育のヒントが得られるのではないかと考えます。本学の活発なFD活動のためにも教員個人だけでなく、各学科・学部でも種々のデータを詳細に検討して頂けますよう、お願いいたします。

本結果報告書でも、例年通りFD委員会において学科別などの集計や分析を行いました。大学のカリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)の再考が求められるなか、各学科、学部の教育課程、教育や学びの方針の再検討の資料としても、前期のデータと合わせて本データを活用して頂けるのではないかと思います。そのためにも、教職員の皆さまには、より一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

## 授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

### 1. 質問 1～14 における評価の特徴

昨年度および今年度前後期の各質問項目に対する平均評価値を科目群別に図 1 と図 2 に示す。ただし、図中の質問 14（満足度）は昨年度の質問 15 に当たる。

【基礎・共通科目】 項目間の相対的な評価の高低は、現在の質問項目を採用した 2014 年度前期以後も、それ以前も傾向（質問 3 の評価が極端に低く、質問 5～10 の評価が比較的高い）が同じである。その解釈や対策については、すでに何度も論じたので繰り返さない。

また、平均評価値の時期的変動には、やはり規則性がみられない。2014 年度は多くの項目で前期の方が後期を上回ったが、2015 年度ははっきりした差がみられなかった。今年度は全ての項目で後期の値の方が低くなったが、これらの変動の原因は不明である。評価の程度や傾向は、基礎・共通科目全体でみれば、長年にわたって変わっていないと見なすべきであろう。多くの教員が授業改善を試みているはずであるが、その効果を科目全体の分析で検出することは難しいと思われる。

【資格関係科目】 基本的傾向は基礎・共通科目と同じである。なお、前期には多くの項目で評価値が過去 3 年の中で最低になり心配したが、今回は逆に過去最高になった。やはり、評価の変動に一喜一憂するべきではないといえる。また、図 2 からは、前期より後期の方が全般的に評価が高くなる傾向が見て取れるが、2014 年度は逆の傾向が現れており、この変動も一貫したものではない。

### 2. 「身についた力」の特徴

「身についた力」について、科目を講義系、演習・実技系（外国語、情報処理演習、スポーツ）、資格系（教職、司書）に分けて、全選択数に対する各選択肢の選択数の比率を図 3-1 に示す。また、科目群別に、4 回のアンケートにおける選択率の変化を図 3-2、3-3、3-4 に示す。

図 3-1 にみられる科目群間の差異は過去 3 回と同じである。すなわち、（1）講義系と資格系では、選択肢②（考える力）の選択率が特に高い、（2）演習・実技系では、選択肢⑤（プレゼンテーション力）を除いて、選択肢間に選択率の大きな差はない、（3）講義系や資格系における選択肢①（問題・課題を見つける力）と選択肢②の選択率は演習・実技系より明らかに高い、（4）演習・実技系における⑥（コミュニケーション力）の選択率が他の 2 領域より明らかに高い、（5）選択肢⑤の選択率がどの領域でも目立って低い。また、図 3-2、3-3、3-4 からも、各科目群における選択傾向が年度を超えて一貫したものであることがわかる。なお、これらの結果の解釈や問題点については、過去にも指摘したので省略する。

### 3. 自由記述の特徴

今回も演習・実技系科目で肯定的なコメント（「わかりやすかった」、「楽しかった」など）が多かったが、外国語科目で特に目立った。担当の非常勤講師の方々に敬意を表したい。また、前期は「授業の進行が速すぎる」という内容のコメントが目についたが、今回は「板書のスピードが速すぎる」というコメントが多かった。学生は板書された内容を一字一句そのままノートに写さねばならないと思っている節があり、学習の基本技術としてノートの取り方を教えねばならないようである。

### 4. 今後に向けて

先にも述べたが、これまで行ってきた結果の分析は壁にぶつかっているように思われる。各教員による結果の個別利用以上のことを目指すならば、分析方法を変える必要がある。たとえば、平均評定値ではなく受講者ごとのデータに基づく分析、成績を含めた分析、適切な相関分析法の採用、科目ごとの詳細な分析などが考えられる。

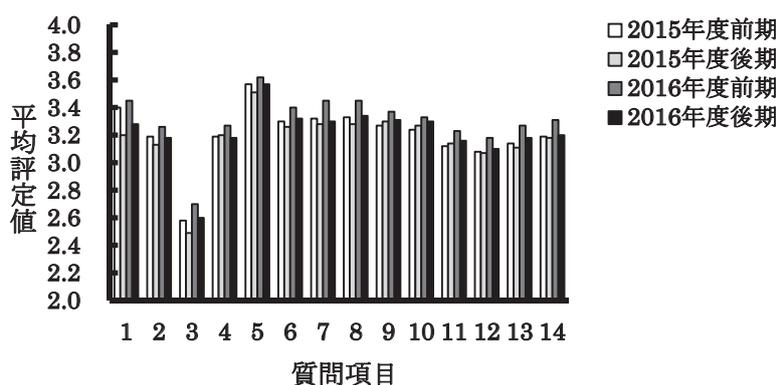


図1 基礎・共通科目

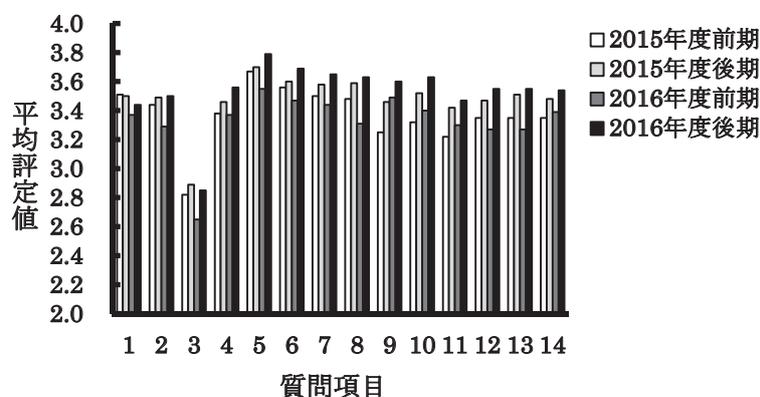


図2 資格科目

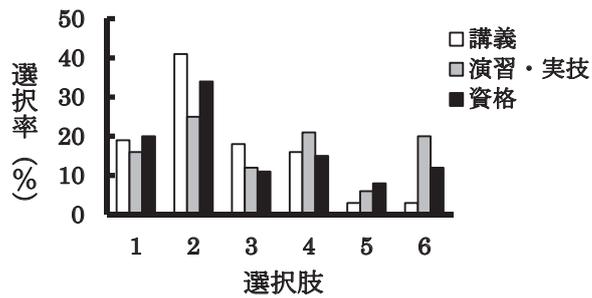


図3-1 身についた力

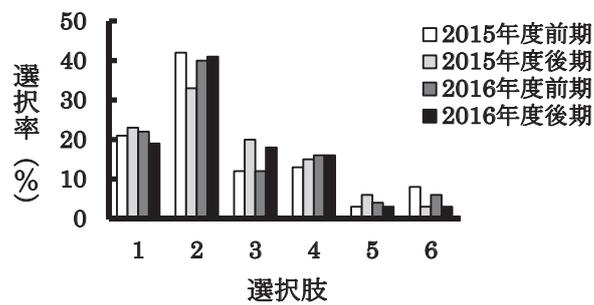


図3-2 講義系

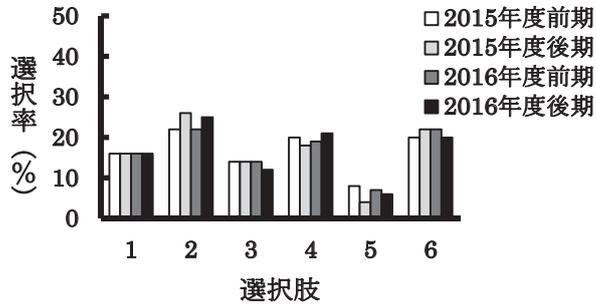


図3-3 演習・実技系

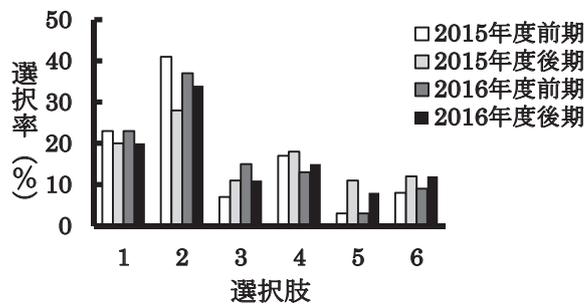


図3-4 資格系

(文責 江草 浩幸)

## 授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

### ①講義系科目（音楽学部および全学平均の評定値）

		音楽学科	音楽マネジメント 学科	全学平均
問1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	↓ 3.47	↑ 3.35	3.41
問2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	— 3.46	↓ 3.37	3.42
問3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	↑ 2.74	↓ 2.68	2.86
問4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	— 3.51	↓ 3.38	3.44
問5	担当教員は授業時間を守っていましたか	↑ 3.65	↑ 3.75	3.64
問6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	↑ 3.59	↑ 3.57	3.53
問7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	↑ 3.57	↓ 3.56	3.55
問8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	↑ 3.48	↑ 3.43	3.42
問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	↓ 3.66	↓ 3.58	3.55
問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	↓ 3.54	↑ 3.51	3.51
問11	この授業の内容は理解しやすかったですか	↓ 3.40	↓ 3.30	3.39
問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	↓ 3.43	↓ 3.40	3.36
問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	↓ 3.45	↓ 3.38	3.43
問14	この授業を受講して満足できましたか	↓ 3.46	↓ 3.30	3.47
平均値		— 3.46	↓ 3.44	3.43

※2016年度前期との比較：↑上昇、↓低下

2016年前期に比べて、音楽学科において（問3）と（問5）（問6）（問7）（問8）音楽マネジメント学科は（問1）（問5）（問6）（問8）（問10）の数値が上昇したものの他は下がった。上昇したのが14問中の両学科それぞれ5問なので、あまりよい結果だとは思えない上、一番大切な（問11）（問12）（問13）（問14）（内容理解のしやすさ、問題意識の深まり、新しい知識の習得、授業の満足度）の評価が軒並み下がったのは大いに反省すべき点で、改善すべき点である。

それでも、全学平均と比較して音楽学科は（問3）（問5）（問8）（問11）以外は平均以上、音楽マネジメント学科は（問5）（問6）（問9）以外が平均以下となっている。

## ②レッスン科目

	音楽学科	音楽マネジメント学科	Ⅲ群	声楽専門	ピアノ専門	創作演奏専門	管弦打楽器専門
質問1. あなたは休まず出席しましたか。	3.53	3.21	3.17	3.67	4.00	3.00	3.80
	3.38	3.33	3.38	3.67	4.00	3.67	3.69
質問2. あなたは授業(レッスン等)の準備(譜読み・練習)を十分にしましたか。	3.19	3.71	3.24	3.67	3.44	2.83	3.40
	3.00	3.22	3.26	3.67	3.50	3.28	3.61
質問3. 教員は授業回数(補講を含む)や時間をきちんと守っていましたか。	3.78	3.93	3.83	4.00	3.56	4.00	3.85
	3.80	3.67	3.86	4.00	4.00	3.33	3.89
質問4. 教員の指導は技術や理解度に合わせて適切な話し方でしたか。	3.74	3.89	3.93	4.00	4.00	3.83	4.00
	3.73	3.67	3.86	4.00	4.00	3.72	4.00
質問5. あなたは授業(レッスン等)で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか。	3.18	3.68	3.52	3.67	3.22	4.00	3.40
	3.11	3.00	3.35	3.67	3.38	3.56	3.70
質問6. 授業(レッスン等)の課題教材はあなたにとって適切でしたか。	3.62	3.82	3.90	4.00	4.00	4.00	3.90
	3.57	3.44	3.86	3.83	4.00	3.72	3.93
質問7. あなたはこの授業(レッスン等)で意欲が向上しましたか。	3.60	3.75	3.90	4.00	3.89	3.83	4.00
	3.53	3.56	3.86	4.00	3.88	3.78	4.00

※下段は2015年後期の数値

この表において注目される事は音楽学科では問3（授業回数）以外、音楽マネジメント学科では問1（授業への出席）以外は数値が上がっている事である。

問8（この授業（レッスン等）で満足できた内容を自由に書いてください。）と問9（もっと修得したい内容、あるいは不満足な内容を自由に書いてください。）は今回はじめて入れた自由記述式の質問だが、

反応は大体同じで、「いろいろ曲を勉強できた」など、たくさんの「新しいもの」に出会って吸収できると嬉しいらしく、「自分の課題とそれを克服する為の練習方法」を「わかりやすく丁寧に説明」してもらえると「楽しかった」と思ってやる気を出す傾向がある。

又、もっと修得したい内容に関しては「オーケストラスタディー」（専攻実技）、「中高でする曲」（合唱）、「聴音と弾き歌い」（ソルフェージュ）などが挙げられていた。

その他、レッスンに関しては多少の数値の上下はあるものの、それなりの評価がされている。しかし、このアンケート収集率ではサンプル数が少なくあまり比較にならず、参考にとどめるものとする。

（文責 田辺良子）

## 授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

### 1. 評価の特徴

人文学部人文学科は近年、留学生の割合が高くなり、授業によっては受講生の半数を留学生が占める場合がある。留学生は、自らの意志で日本の文化や学問を学ぶことを希望して来日しているので、当然ながら学びの意欲は高く、なかにはアルバイトによって学費と生活費のすべてをまかないながら、授業の他にも大学の行事に積極的に参加するなど、他の模範となっている学生も多い。しかし、授業以外の活動に集中しすぎ、もともと大学での学びを第一義としていないような留学生が散見されるのも事実である。

漢字文化圏以外からの留学生（ベトナムなど）も増えてきており、日常会話には問題がなくとも学問領域の専門用語の聞き取りや文字の読み書きに不安を抱える学生も少なからず存在している。

このような状況から、留学生においては授業への取り組みに個人差が大きくなっているといえよう。

留学生以外の学生においては、中学・高校の教諭をめざして入学当初から自主的に勉強会に参加する、学生主体の活動に積極的に取り組むなど、高い目的意識をもった学生が授業を牽引している。一方で、入学後に専攻を選択するという本学科の特徴から、何を学びたいかが見つけられないまま、数年を経てしまう学生も一定数存在する。

このような学科の特徴を鑑み、授業評価アンケートの調査結果について、全学平均と人文学科、留学生の動向について検討する（表 1、および図 1 から図 4）。

問 1「休まずに出席したか」、問 2「学習目標の理解の有無」という質問について、人文学科は全学平均より低く、留学生は全学平均より高い傾向がある。これは従来と同様である。

問 3「予習・復習、時間外学習の有無」という質問では、留学生が高く、人文学科が低いことに変わりはないがその差が縮まっている。人文学科の学生に見られる最近の傾向の一つに、単位を落とすことや成績が悪化することに強い警戒を抱く点があげられるように思う。学びへの関心が高まったというよりも、与えられた課題をこなしていくことに集中するといった感じであろうか。

担当教員の授業に対する姿勢を問う問 4～8 までの項目は、いずれも高い傾向にある。専任・非常勤の教員が学生との接点を持ちながら、おとなしい学生の様子や留学生とそれ以外の学生のかかわり方などを踏まえ、授業を効率的に進めるための工夫に懸命に取り組んでいることを示しているといえようか（図 2・図 5）。

授業の実施状況や理解を問う問 9～11 までの項目は、留学生の日本語力のばらつきやそれ以外の学生の個々の学力から考えても、授業によって、あるいは受講

生の状況によって、適宜対応が必要であり、真剣に学ぼうとする学生にはその意欲をなくすことのないよう、学びの姿勢が高まらない学生には脱落することのないよう、各教員がアンケート結果をもとに工夫を重ねなければならないものである。

講義内容の理解および受講による学修効果を問う問 12～14 までの項目においては、人文学科の科目構成、学生自身の学びに対する姿勢などから考えて、突然めざましい変化をみせる性質のものではなく、人間形成のなかでじわじわと伝わっていく要素が大きいものであることを踏まえると、考えられる妥当な値となっているように思われる。特に後期は、授業への関心が低くなる学生と積極的に学び続ける学生との差が大きくなる傾向があり、教員は学生の状況をよく観察して、努力を続ける必要があるのは当然である。

## 2. 自由記述の特徴

自由記述欄では「わかりやすかった」「退屈さが全く感じられなかった」「よく理解できた」など、教員に対して好意的な記載が見られることは、学科全体の取り組みが一定の効果을あげている側面と考えられる。一方、板書や配付資料、授業の進行などに関する意見は、各教員が真摯に受けとめ、改善していく必要がある。

学生と接する時間が限られる非常勤教員についても、指導方針を共有するために必要な材料として有効な調査結果だと考えられる。現在の非常勤教員と専任教員との緊密な連携を今後も継続することの重要性を再認識した次第である。

授業に関する率直な感想を見ることができるのは、教員の意欲にも大きな影響を与えるであろうし、学生の思いを汲み取る上でも重要な意味があるものといえる。

表1 人文学科・留学生科目および全学平均の評定値

		人 文 学 科	留 学 生	全 学 平 均
問1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3.33	3.72	3.43
問2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3.37	3.88	3.44
問3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	2.92	3.65	2.92
問4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3.45	3.96	3.47
問5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3.61	3.94	3.67
問6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3.51	3.91	3.56
問7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3.54	3.94	3.56
問8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3.45	3.92	3.50
問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.53	3.83	3.55
問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.52	3.90	3.52
問11	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.40	3.94	3.41
問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.34	3.85	3.41
問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.39	3.87	3.44
問14	この授業を受講して満足できましたか	3.41	3.92	3.44
平均値		3.41	3.87	3.45

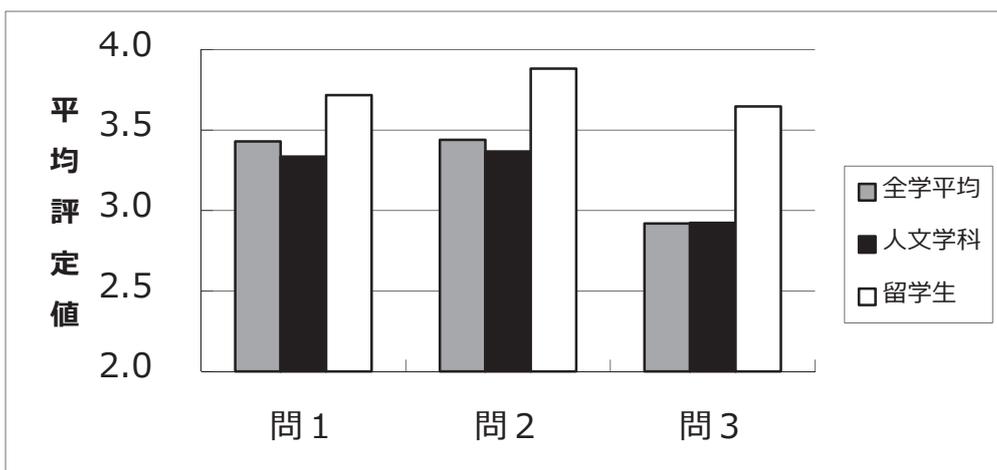


図1 人文学科・留学生科目および全学平均の問1～3の平均評定値

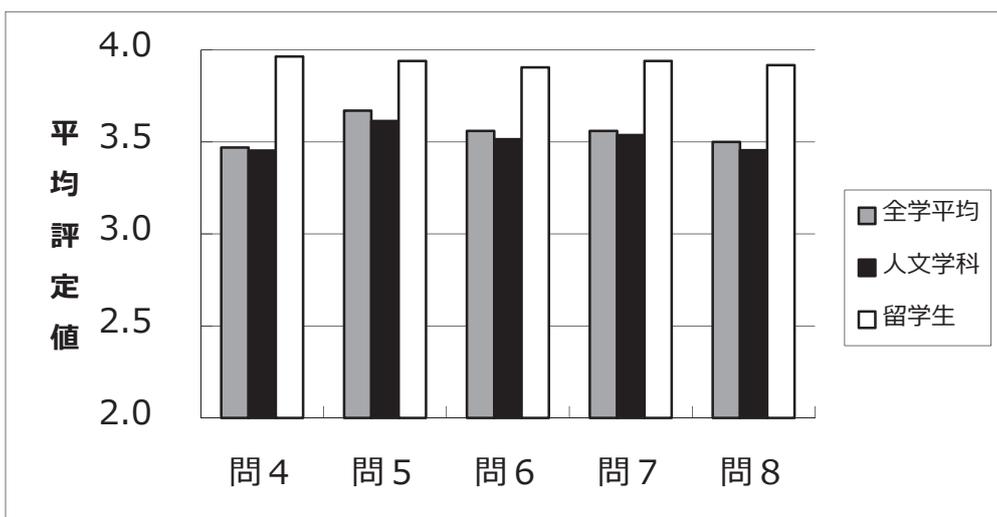


図2 人文学科・留学生科目および全学平均の問4～8の平均評定値

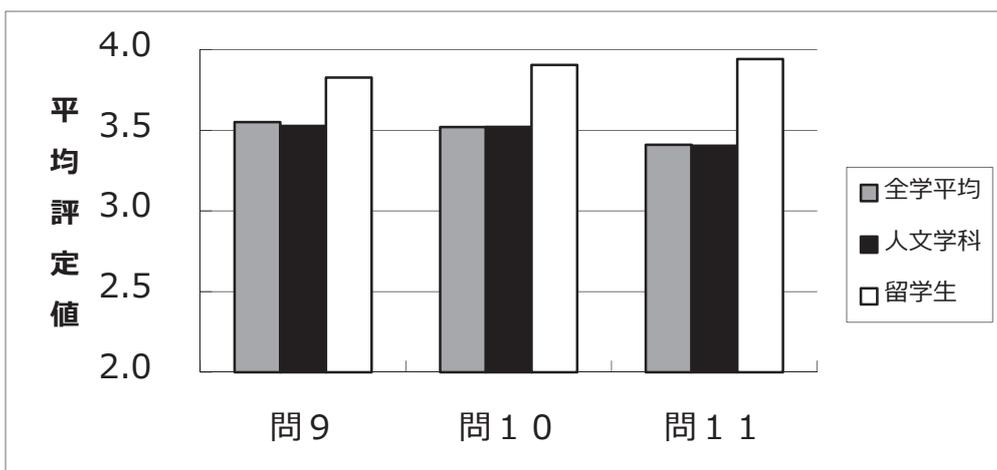


図3 人文学科・留学生科目および全学平均の問9～11の平均評定値

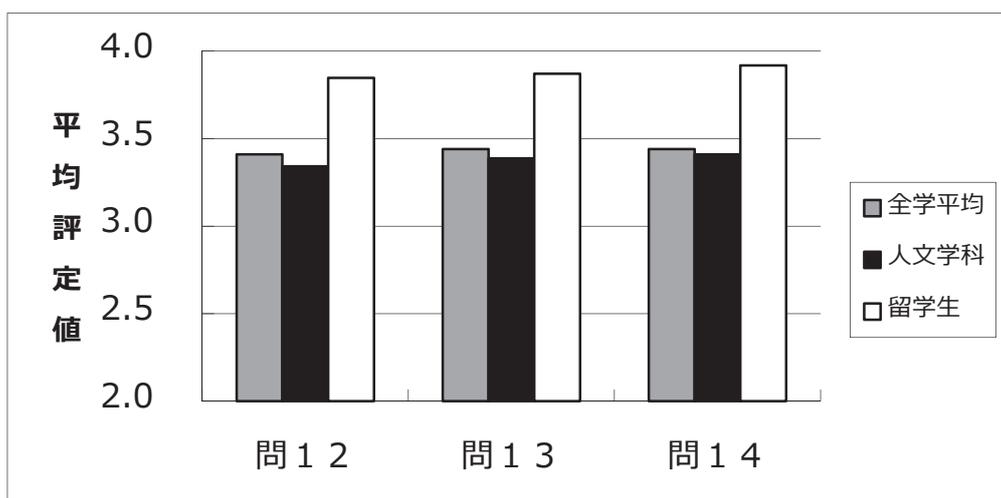


図4 人文学科・留学生科目および全学平均の問12～14の平均評定値

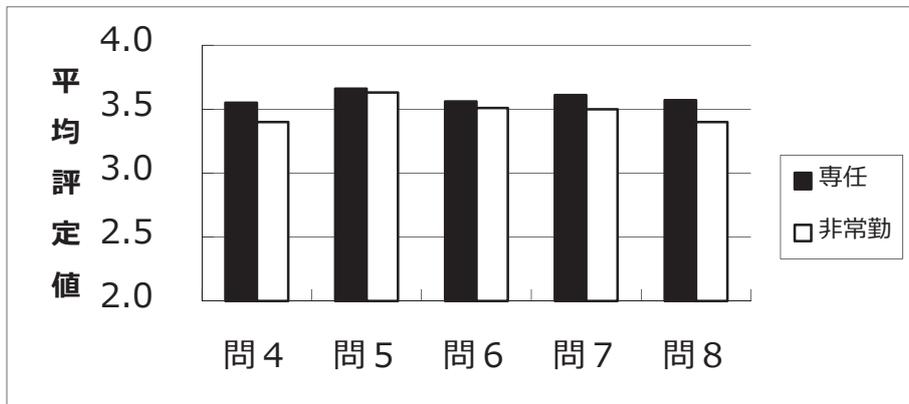


図5 人文学科専任教員および非常勤教員の問4～8の平均評定値

文責 佐々木隆晃

## 授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

### 1. 評価の特徴

人間発達学部は子ども発達学科では保育士資格、幼稚園・小学校教諭一種免許状、発達栄養学科では栄養士資格、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員資格などの資格取得を目的として、授業カリキュラムを編成している。そのため、これらの資格に関連する授業が多く、授業評価アンケートの対象も資格取得に関連したものである。また、実験・実習および演習が多いのも本学部の特徴である。

両学科の資格取得には一定の出席数が文部科学省および厚生労働省が規定で定められている。それにも拘わらず本調査では、問 1「授業を休まずに出席したか」は全学平均とほとんど差がなく、問 2「学習目標の理解」は両学科とも全学平均より低い値を示した。この評価点は 2015 年前・後期および 2016 年度前期の結果に比べて低く、資格取得を目的としている学生が多く在籍する本学部においては、再認識すべき課題である。また、問 3「予習・復習、時間外学習」の評価点は 2014 年度前期から継続的に低く、講義や実習、演習に予習や復習をしてまで臨むという体制が全く整っていないこと、資格取得のための自主的な学習体制が構築されていないという問題点は、短期的な取組では改善することが困難な大きな問題であることが明白となった(表 1 および図 1)。

担当教員の授業に対する姿勢を問う問 4～8 までの項目は、2015 年度後期および 2016 年度前期アンケートと同様に、対象授業によりばらつきが認められた。また、各項目の値は全体的に専任教員に比べて非常勤教員で若干低い傾向を示し(図 2、図 2-2)、学生から質問に対する対応や受講態度への注意に関する問 7・8 の項目は専任に比べてわずかに低い値を示した。この結果から本学部の非常勤の先生方は限られた時間のなかでも専任教員と連携して、適切な授業の実施に努めておられる姿勢が窺える。

問 6 の教員による学習目標の提示に関しては、子ども発達学科・発達栄養学科のいずれにおいても全学に比べて低い値を示した。本項目と関連する問 2 の学習目標の理解も低いことから、教員が学習目標を示しているにも関わらず学生が十分に理解していないことも考えられる。この値は過去のいずれ調査時でも全学と比較して低いことから、今後は学習目標を包括的なものでなく具体化して示す、講義時間ごとに必ず提示する、講義の内容と合わせて提示するなどの工夫を各教員が徹底すること期待する。

授業の実施状況や理解に関する問 9～11 までの項目は、全学の平均値に比べて若干低い値を示したが、授業によりばらつきがあることから、人間発達学部における視覚教材の活用や講義のスピードは、適切であると考えられる(表 1 および

図 3)。ただし、自由記述欄に「板書がみえにくい」「消すのが早い」などの意見が挙げられたことから、該当する授業では早急な対応を期待する。授業の理解を問う問 11 についても全学に比べて低い値であり、全ての学年において高度な学習への対応が不十分な学生がいると考えられる。自由記述欄でも同じ講義に対して「充実した」とある一方で「つらかった」など正反対の意見が見られたが、学ぶ側である学生の自主的な学習に関連する「問 3 予習・復習の推定値」が上昇することで改善が期待できる。

授業内容の理解および受講による学習効果を問う問 12、13 および 14 の項目は、全学の平均値に比べて若干低い値を示した（表 1 および図 4）。本アンケート対象授業の多くが資格取得に関連することから、問 12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問 13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、評価点をさらに高める努力が必要と考えられる。

## 2. 自由記述の特徴

自由記述欄では今回も「楽しい」「良かった」という意見が多く見られた。前期の調査と同様に「スピードが速い」「ノートが大変」など、学びに対応できていない意見も多々認められた。一方で、同じ授業に対して「わかりやすい」「しっかり学ぶことができた」と記述している学生もいることから、半年間の学びを経た後も同クラス内での基礎学力や学習能力の差は依然として大きいことが推察された。

## 3. 身についた力の特徴

人間発達学部における後期の授業には実験・実習・演習が多く含まれることから、学生の自己評価を比較した。全学と比較してすべての項目で高い値を示したが、子ども発達学科に比べて発達栄養学科の学生はプレゼンテーション力やコミュニケーション力の自己評価が低いことが明らかとなった。これらの能力は現場での活躍においては不可欠であることから、今後の課題として取り組む必要性を感じた。

表 1 人間発達学部および全学平均の評定値

		子ども 発達 学科	発達 栄養 学科	全学 平均
問 1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3.40	3.45	3.43
問 2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3.38	3.37	3.44
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	3.01	2.88	2.92
問 4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3.33	3.36	3.47
問 5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3.46	3.58	3.67
問 6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3.42	3.47	3.56
問 7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3.41	3.52	3.56
問 8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3.34	3.44	3.50
問 9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.43	3.48	3.55
問 1 0	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.37	3.35	3.52
問 1 1	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.34	3.31	3.41
問 1 2	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.34	3.28	3.41
問 1 3	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.39	3.32	3.44
問 1 4	この授業を受講して満足できましたか	3.37	3.35	3.44
平均値		3.36	3.37	3.45

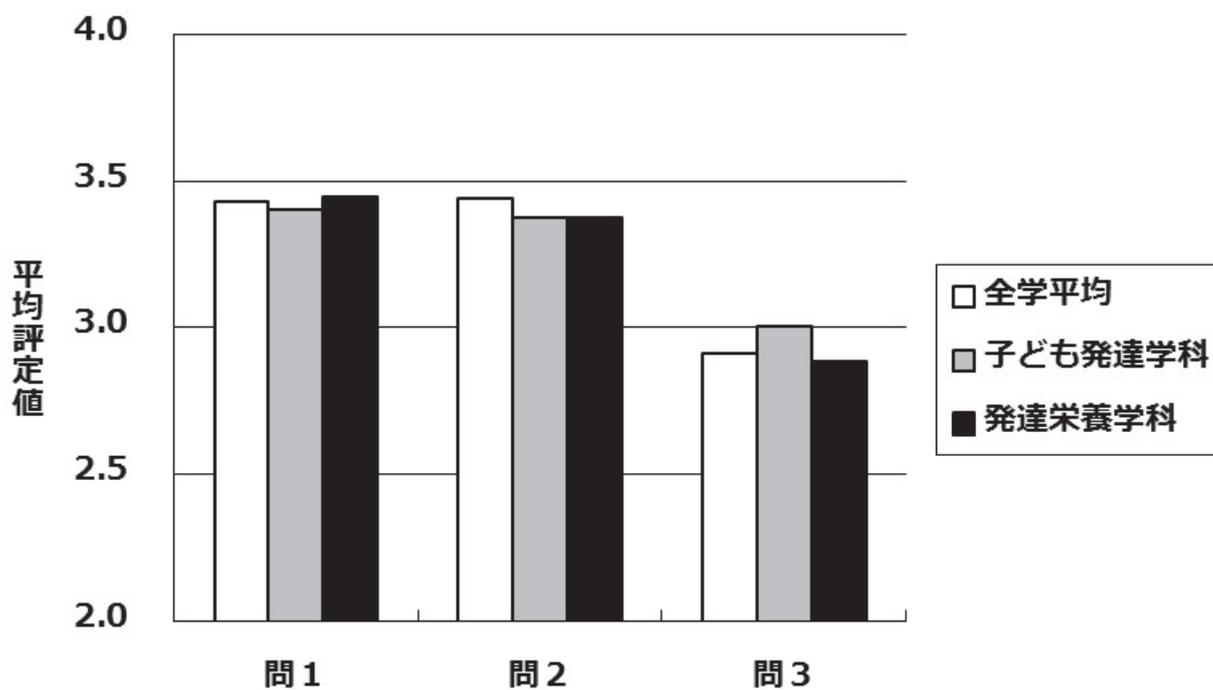


図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評定値

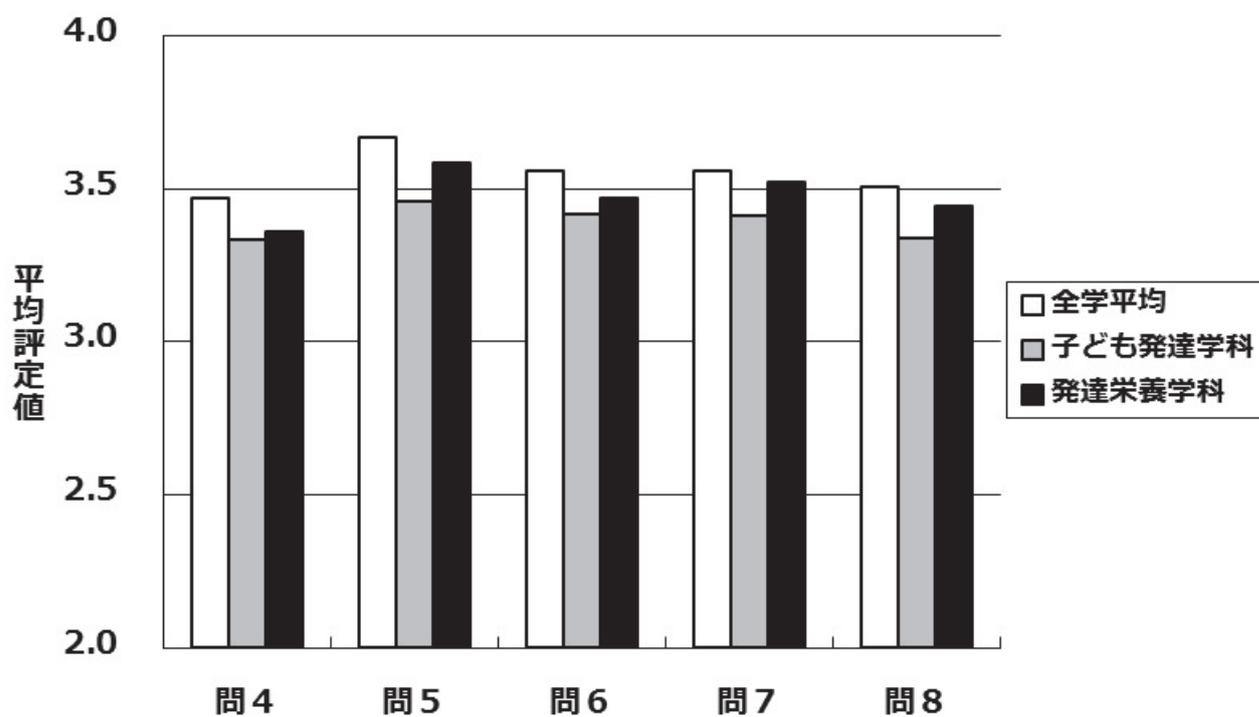


図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評定値

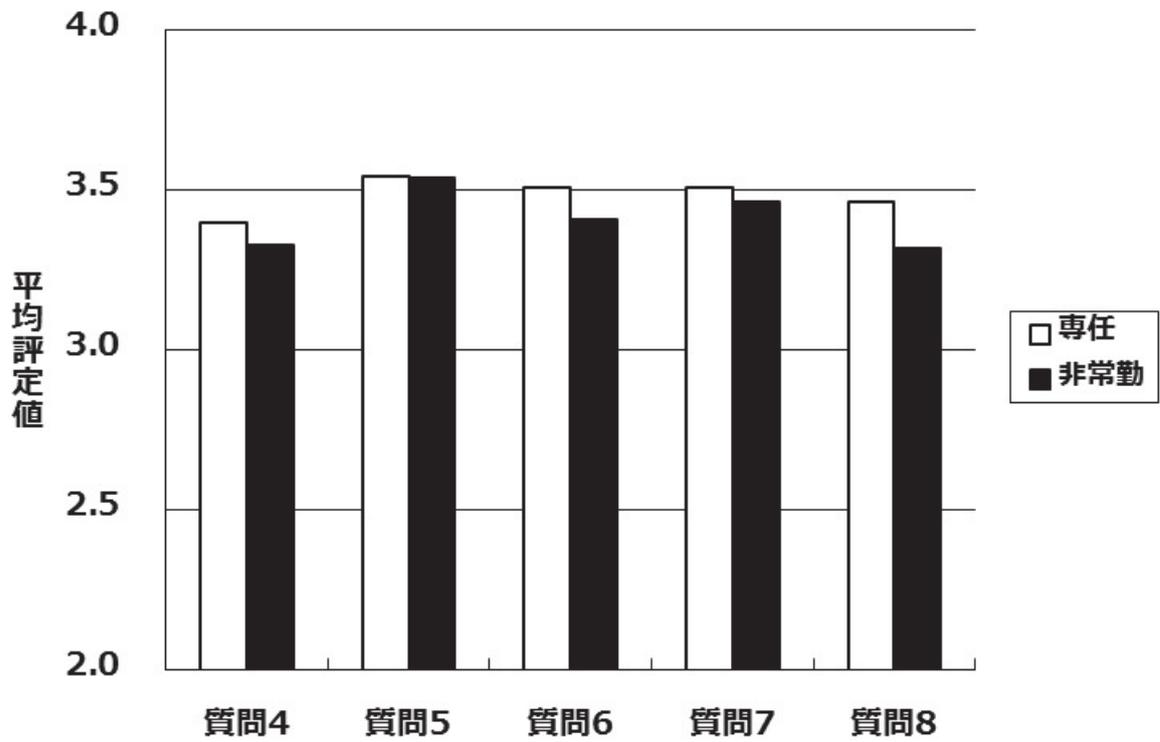


図 2-2 人間発達学部専任教員および非常勤教員での問 4～8 の平均評定値

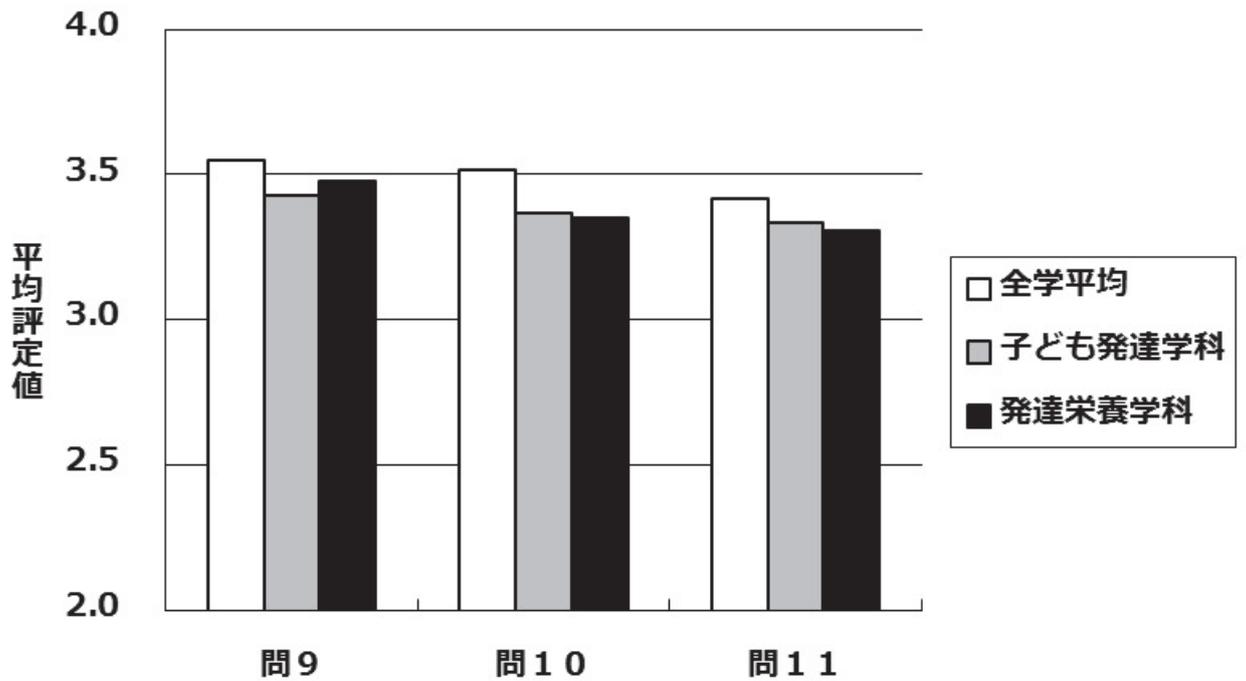


図 3 全学および人間発達学部の問 9～11 の平均評定値

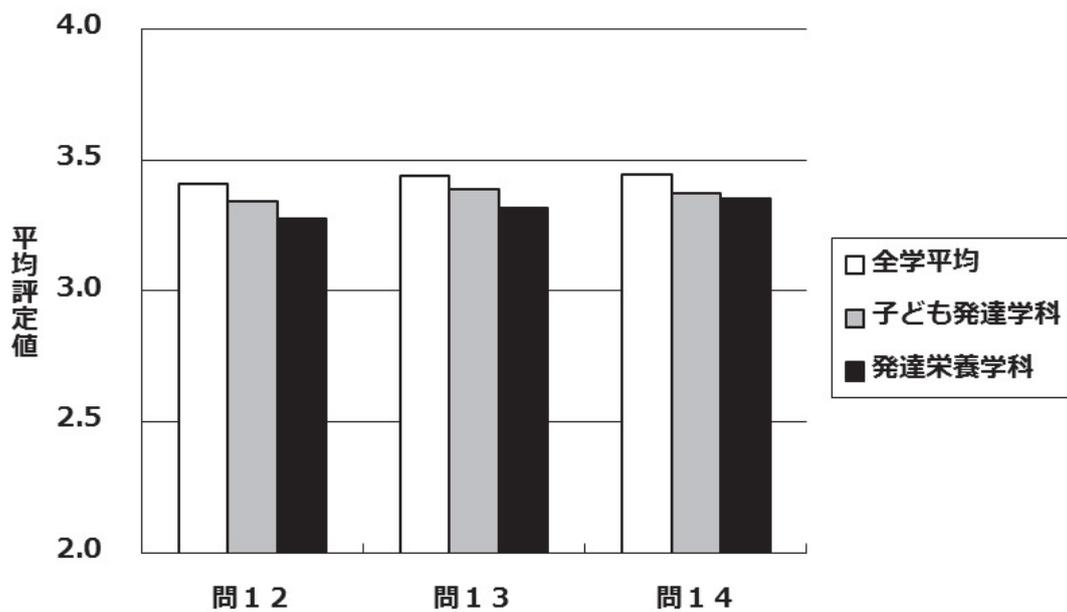


図4 全学および人間発達学部の間12、13および14の平均評定値

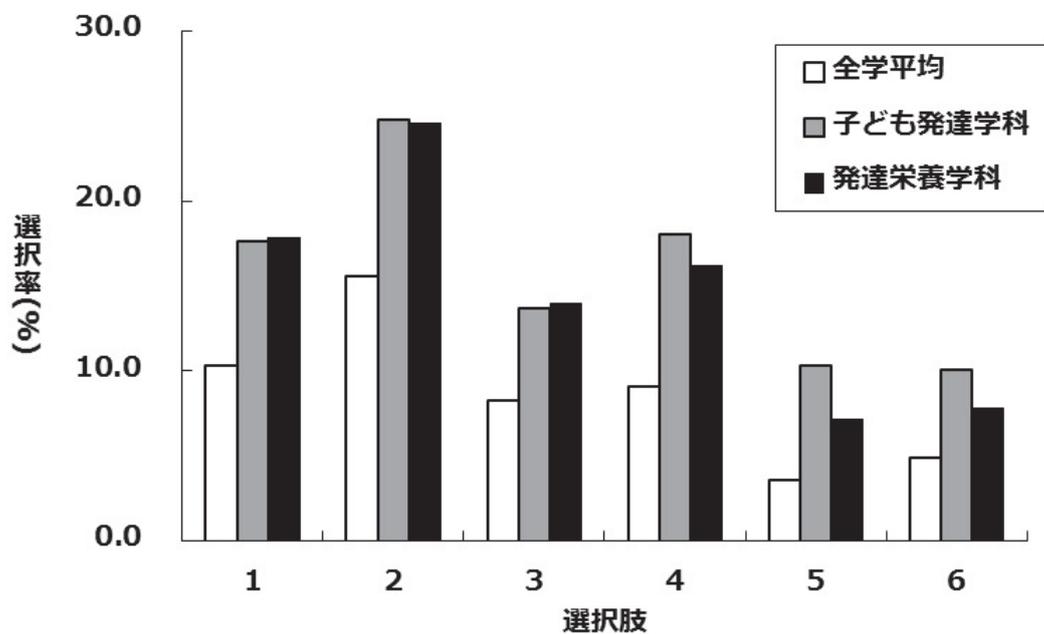


図5 人間発達学部の間15の選択率

※選択肢1：問題・課題を見つける力、2：考える力、3：調べる力  
 4：主体的に取り組む力、5：プレゼンテーション力、6：コミュニケーション力

(文責 庄條 愛子)

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.28	3.44	3.72	3.47	3.35	3.33	3.40	3.45
問2	3.18	3.50	3.88	3.46	3.37	3.37	3.38	3.37
問3	2.60	2.85	3.65	2.74	2.68	2.92	3.01	2.88
問4	3.18	3.56	3.96	3.51	3.38	3.45	3.33	3.36
問5	3.57	3.79	3.94	3.65	3.75	3.61	3.46	3.58
問6	3.32	3.69	3.91	3.59	3.57	3.51	3.42	3.47
問7	3.30	3.65	3.94	3.57	3.56	3.54	3.41	3.52
問8	3.34	3.63	3.92	3.48	3.43	3.45	3.34	3.44
問9	3.31	3.60	3.83	3.66	3.58	3.53	3.43	3.48
問10	3.30	3.63	3.90	3.54	3.51	3.52	3.37	3.35
問11	3.16	3.47	3.94	3.40	3.30	3.40	3.34	3.31
問12	3.10	3.55	3.85	3.43	3.40	3.34	3.34	3.28
問13	3.18	3.55	3.87	3.45	3.38	3.39	3.39	3.32
問14	3.20	3.54	3.92	3.46	3.30	3.41	3.37	3.35
平均値	3.21	3.53	3.87	3.46	3.40	3.41	3.36	3.37

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧（レッスン）

	音楽学科	音楽マネジメント学科	Ⅲ群	ピアノ専門	創作演奏専門	管弦打楽器専門	声楽専門
問1	3.53	3.21	3.17	4.00	3.00	3.80	3.67
問2	3.19	3.71	3.24	3.44	2.83	3.40	3.67
問3	3.78	3.93	3.83	3.56	4.00	3.85	4.00
問4	3.74	3.89	3.93	4.00	3.83	4.00	4.00
問5	3.18	3.68	3.52	3.22	4.00	3.40	3.67
問6	3.62	3.82	3.90	4.00	4.00	3.90	4.00
問7	3.60	3.75	3.90	3.89	3.83	4.00	4.00
平均値	3.52	3.71	3.64	3.73	3.64	3.76	3.86